

レジデントカリキュラム **リウマチ科**

概 要

我が国における関節リウマチの罹患率は、人口200人に1人といわれ、比較的罹患患者数は多い疾患である。しかしながら、一般病院に通院されている患者は少なく、特定の専門病院に集中しているのが現状である。このことは、この疾患を治療するにあたって、高度な専門知識および経験が必要とされることによる。実際、当院のリウマチ科および整形外科に通院されているリウマチ患者数は2000人にのぼり、大阪南部地域のみならず、大阪北部、奈良、和歌山より通院されている患者も多く、近畿における代表的なリウマチにおける拠点病院の一つである。さらに、国立病院機構においては、政策医療（免疫異常）の近畿における基幹病院である。

以上のことから、この分野における最新治療の実践にとどまらず、エビデンスの収集をおこない、それを基にして将来の治療指針の策定をおこなうこと、ならびに、この分野における指導的立場となる医師の養成を行う責務を当科は負っている。この点において、当リウマチ科では、一人の患者を整形外科系と内科系が協調、協力して診療にあたり、整形外科系を志望する医師にとっては、内科的治療（薬物療法）の経験も、内科系を志望する医師にとっては、外科的治療の経験も積むことができ、バランスのとれた専門医を育成できる環境が整っている。

一般研修目標

- 1) 関節リウマチの診断が適切にできること（他院より、診断困難のため紹介された患者を含む）。
 - 2) 関節リウマチの活動性を正しく診断し、適切な治療法を選択できること。
 - 3) 関節リウマチの病期を正しく把握し、外科的治療の必要性を判断できること。[リウマチ科（整形外科系）医師の指導のもと]
 - 4) 関節リウマチ治療中に発生した合併症（薬物の副作用を含む）を適切に治療できること。必要に応じて、呼吸器科等と協調して治療にあたるようになること。
 - 5) 関節リウマチにおける最新の治療である生物学的製剤を用いた治療の実践（適切に適応患者を選択することを含め、安全に実践できること）
 - 6) 膠原病を含めた、リウマチ類縁疾患の診断および治療ができること。
 - 7) リウマチ科（整形外科系）において、手術を含めた整形外科の研修も選択することができる。
- 以上の項目を研修することをおして専門医としての研鑽を積んでいただく。

高度達成目標（臨床研究）

- 1) 一定のプロトコールに基づいて治療を行い、そのアウトカムを評価し、治療指針策定に必要なエビデンスを収集する。
 - 2) 治療に伴う合併症の病因についての多因子解析。この場合、症例数に限りがあるので、国立病院機構のネットワークをとおして、他地域の基幹施設および協力施設の症例も含めた解析を行う。
 - 3) 疾患に伴う合併症（間質性肺炎、アミロイドーシス、腎病変など）の発症にかかわる因子の解析。
- 以上のことを実践することをおして、リウマチ科における指導的立場の医師としての研鑽を積んでいただく。
- 4) 臨床研究に関しては、当院の臨床研究部との協力が必要となり、臨床研究部長および室長の協

力、指導のもと、リウマチ科スタッフと共同でおこなって行くこととする。

回診・カンファレンス等の週間スケジュール

1) カンファレンスおよび回診

1. 火曜夕：アレルギー科・リウマチ科（内科系）のカンファレンスおよびリウマチ科（整形外科系）との合同カンファレンス

2. 水曜夕：アレルギー科・リウマチ科（内科系）・リウマチ科（整形外科系）の合同カンファレンスと回診

3. 金曜午後：アレルギー科・リウマチ科（内科系）、呼吸器科との合同カンファレンスおよび部長回診

4. 金曜午後（合同カンファレンス終了後）：リウマチ科（整形外科系）のカンファレンスおよび部長回診

必要に応じて、リウマチ科（整形外科系）およびアレルギー科もしくは呼吸器科と合同してリサーチカンファレンスを行う。

最後に一言

以上のように、当リウマチ科では、リウマチ専門研修にとどまらず、幅広い研修および研究が可能であり、意思と意欲を持った医師の応募を期待する。